

平成27年度第3回根室市市政モニター会議【記録】

1. 日 時 平成27年12月4日（金）午後6時30分～午後8時15分
2. 場 所 根室市役所3階 大会議室
3. 出席者 【市政モニター】5名出席

【市 側】15名出席

長谷川市長、高橋市民福祉部長、今井教育部長、竹本病院事務長
斉藤病院事務局次長、森谷こども子育て課長、鈴木保健課長、齋藤教育総務課長、
谷口社会教育課長、浦崎社会体育課長、松永図書館長
佐田総務部長、石橋総務課長、富樫広報広聴主査、下内主事

【会議進行】佐田総務部長

【司 会】石橋総務課長

4. 開会挨拶（長谷川市長）

本日は、平成27年度、第3回市政モニター会議に、夜間の開催にも関わらずご出席いただき感謝申し上げます。本年の市政モニター会議は7月に1回目、10月に2回目の会議を開催したところであるが、本日のモニター会議で、本年度は、最後の開催となる。前回の会議は、根室市の「産業」をテーマに実施したところであるが、テーマを設けることで、これまでの市政モニター会議に比べても、非常に活発な意見交換ができたと聞いている。

本日は、モニターの関心が高かった「子育て支援の充実」、「教育の振興」、「医療の充実」がテーマとなっている。安心して子育てできる環境整備は喫緊の課題であるし、また、今後の根室市を担う人材の育成は、将来を見据え、しっかりと取り組んでいく必要があると考えている。また、市としても、最重要課題の一つと位置づけ、分娩再開や医師確保・定着に向けて積極的に取り組んでいるところであり、本日のテーマのどれもが根室市にとって大変重要なものと認識している。

本会議は、根室市の主役である市民の声を市政に反映することを目的としている。本日、出された意見は、今後の市政運営の参考とさせていただきたいと考えているので、忌憚のない意見・提言をいただきたい。

（挨拶後市長退席）

5. 会議詳細（進行 佐田総務部長）

モニター会議への出席者数について

○モニター

モニターは全員で17人いるはずなのに、本日の出席者は5人。3回のうち最高でも10人と低い出席率となっているが、市政モニターの選定についてはどのように行っているのか。

●佐田総務部長

団体からの推薦が主である。

○モニター

せっかく市政に対する意見を言う良い機会を設けてもらったのにもったいない。今後は、多くのモニターに出席してもらえよう検討していただきたい。

愛郷心を育てる教育について

○モニター

釧根地域の中学生を対象とした地元に対する愛着度アンケートの結果が釧路新聞に載っていた。厚岸や標茶、別海、中標津は高いが、根室、標津、羅臼あたりが低い結果であり、田舎の魅力をもっと子ども達に伝える必要があると書いてあった。小さいうちから根室の良さを教育していただきたい。日頃から授業の一環としても、愛郷心を育てる取組みをすれば、将来的に根室に戻ってくる子どもたちも増えるのではないか。

●今井教育部長

小学生の低学年では「生活」の時間、高学年や中学生では「社会」の時間、そして「総合的な学習」の時間などを利用して、学校の外に出て地域を知るという授業を実施している。また、歴史的な史跡や植物などについても社会見学の一環で歴史と自然の資料館に見学に行くなどして、学習する機会を設けている。愛着度アンケートの結果が低いというのは残念に思うが、学校では授業を通し子ども達に自分の住む地域を知ってもらおうという取組みは既に実施しているところである。

○モニター

自分も根室で育ったが、小さい頃は、家と学校の近辺のことしか知らなかった。フレシマ海岸などは、大人になってから初めて行った。最近ではチャシなどの史跡も資源として認識されてきたが、根室の人はほとんど見に行ったことはないと思う。市でも史跡見学会などをやっているが、そういう事業は子どもにこそ参加してもらい、根室のことを知ってもらう必要がある。

●今井教育部長

フレシマ海岸にしてもチャシ跡にしても、最近、色々と注目を集めている。せっかくの機会であるので、市外に発信するのはもちろん、市内でも子供たち、または市民の方にどうやって認識してもらおうのが良いのか検討しているところである。

環境教育の場の提供について

○モニター

環境教育として学校内に限らず、これからは、どんどんフィールドに出て学習する機会が必要であると考えている。歴史と自然の資料館の方や野鳥の会の方とも話す機会が多く、根室は子どもを遊ばせるフィールドがなかなかないという話をしている。私も彼らと一緒にいずれは環境教育をする場を作りたいと思っており、現在、構想段階で話は全然進んではいないが、例えば川や海で遊んだり、森を歩いたり、実際に竪穴住居を復元したりといった体験型の教育を充実させる必要があると考えている。

中標津などでは、幼稚園児や未就園児たちが森で遊ぶ「森の幼稚園」のようなことをやっているし、標津やラウスでは学校の先生が中心となり、知床岬でキャンプをしたりする「知床探検隊」といった取組みを行っている。私も活動に携わらせてもらったりすることがあるが、そういった取組みが根室でも必要と考えており、市としてもバックアップしていただきたい。

●今井教育部長

現在、学習指導要領の中でも、体験型の教育を進めるという方向で進んでいる。例えば、今は、ほぼ全ての家庭で自家用車があり、小学生は一人で切符を買って列車に乗る機会がないことから、子ども達に、切符を買うお金を渡して券売機から切符を買って、改札を通過して列車に乗るといったことを体験してみようといった取組みを総合的な学習の時間に行ったりもしている。

また、これまで「ニムオロ自然教室」として、別当賀夢原館を拠点に川でカワエビを獲ったり、夜に天体観測するといった実際にフィールドに出て自然を体験する事業をおこなってきた。今年度からは、子どもリーダー研修という別の事業として自然体験学習を行っているが、子どもたちが遊べて、色々なことを体験できるフィールドが増え、体験学習の選択の幅が広がることは、教育委員会としても望ましいことと考えている。

○モニター

今、野鳥観光が盛り上がり、それで国内外から多くの人が根室を訪れている。バードフェスティバルなども開かれているが、絵画コンクール位しか子どもたちが参加する機会がない。観光で根室を訪れる人は、根室の良さをとても良く知っているのので、子どもたちと外の人がふれあえる機会を作ることは、子どもたちが根室の良さを認識するととても良い機会になると思う。

学力の向上について

○モニター

地域学習は勿論大切であるが、高学年になってくると学力の向上は非常に重要になってくると思う。先日、全国の学力テストが行われたと聞いているが、根室市の結果はどうだったのか？今後の学力を向上させるための取り組みについて教えていただきたい。

●齋藤教育総務課長

先日実施した全国学力・学習状況調査の結果を11月30日付けで公表させていただいた。小学生は全道平均との比較で前回に比べ差が縮まってきたが、残念ながら中学生は差が広がったという結果であった。

平均正答率だけで見るとそういう結果であるが、他に調査項目があり、児童生徒の一日の学習時間が多いほど平均正答率が高く、インターネットやSNSの利用時間が短い生徒ほど平均正答率が高いという結果になった。そういった結果からも、子ども達に学習機会を与えることが重要と感じている。現在、帰りのホームルームの時間に、家庭で勉強する項目を書かせており、それを帰ってから学習し、翌日先生に見せるというのが徐々に定着してきている。これは低学年からはじめていたので、小学生にはそういう効果がでてきているのかもしれない。学校、家庭を含めた形で、子どもたちが家庭学習をやる環境をつくっていくことが大切だと考えている。

児童会館について

○モニター

以前は多くあった児童会館が、最近はなくなってきている気がしている。

●今井教育部長

確かに以前は各校区に2～3ヶ所児童会館があった。しかし、児童会館の老朽化したこともあり、今後のあり方を議論した際に、利便性や安全面を考え学校の中に設置することとなった。例えば、花咲校区に二つあった鳴海児童会館、駒場児童会館は、現在、放課後児童教室と名前は変わっているが、花咲小学校の中に設置されている。玄関は別なので、一度校舎の外に出る必要があるが、子どもたちはすぐに児童会館を利用できる。ただ、児童会館では遊戯室という自由に使えるスペースがあったが、小学校の体育館で少年団活動をやっているのので、その調整が必要となる場面があるようである。現在、西浜児童会館は残っているが、それ以外は学校の中に設置している状況である。

○モニター

建物が残っている児童会館を地域の交流拠点として活用することはできないのか。

●今井教育部長

昭和児童会館については、そのように目的を変え、現在は「根室市福祉交流館」として利用されている。

○モニター

駒場児童会館はどうか。

●今井教育部長

使われなくなって10年近くたっており、老朽化が激しい。駒場児童会館の後利用という今現在は決まっていない。

奨学金制度について

○モニター

奨学資金の貸付については、卒業後地元に戻って就職することを条件に、金利を安くするなど優遇制度をつくれれば教育の振興とあわせ人口減少の抑制にも繋がると思うが、そういった検討はしているのか。

●今井教育部長

奨学資金の貸付については基本的に貸付型と給付型の二つがある。現在、教育委員会で行っているのは、貸付型である。

○モニター

人口減少を抑制するためにも、給付型の奨学金制度について検討してはどうか。

●今井教育部長

最近では、そういった給付型の奨学資金の貸付を行う自治体もあると認識しているが、根室市ではまだ検討に至っていない状況である。

高齢者と子どものふれあいの場について

○モニター

現在は、父母が若い世代になって、祖父祖母と同居していない世帯が多くなり、高齢者から学ぶことができない世の中になってきたと思う。高齢者から学ぶことは色々あるので、元気のある高齢者ボランティアの方たちと子どもたちのふれあいの場をたくさん持つことができれば良い。

●今井教育部長

児童会館や放課後教室でも高齢者とのふれあい交流事業を行っている。また、学校でもボランティアの高齢者を講師として招き、高齢者と子どもたちの交流の機会を作っているところである。

○モニター

子どもが少なくなつて、空き教室も多くなつてきている。そういう教室を利用しながら、スポーツなどを通して、一般の方とふれあうことのできるような事業を進めて欲しい。

公園について

○モニター

自分が小さい頃は、公園に色々な遊具があったと思うが、最近ほとんど見かけない。老朽化したものを更新できない財政状況もわかるが、今の子どもたちは何を遊んでいるのかと思う。外で遊ぶ子どももあまり見ない。子どもの頃、近所の友達と公園の遊具で遊んだ経験が今にも生かされている気がしており、そういう経験を今の子どもたちにもさせてあげたい。

○モニター

以前、明治公園の今後をどうするかというアンケートを実施したと思うがその結果はどうなっているのか。

●佐田総務部長

市民の皆さんから色々と意見をいただき、いただいた意見を参考に、明治公園を今後どうするかという構想を練っている段階である。

○モニター

アンケートではどんな施設が必要という意見が多かったのか。

●佐田総務部長

手元に資料がないので、改めてアンケートの結果をお知らせしたい。また、公園の遊具についてだが、中には駒場町の望洋団地の公園のように遊具を充実させている公園もある。

体育館について

○モニター

自分は明治公園の近くに住んでいる。明治公園も遊具が更新されたが、冬場は使えない。できれば、明治公園に、小さい子からお年寄りまで一年中遊べる屋根のついた施設があれば良いと思う。

○モニター

そのためにも、やはり体育館が必要なのではないか。病院も建ったし、次は体育館である。冬でも屋内でランニングやウォーキングをはじめスポーツのできる施設が必要である。根室はウォーキング人口が多い。冬でも運動公園や明治公園のウォーキングコースだけでも雪かきして欲しいという意見を聞いたことがある。

●佐田総務部長

確かに青少年センターは老朽化してきており、今回の新長期総合計画を作る際のアンケートでも体育館の希望は多かったと聞いている。

●今井教育部長

青少年センターは築40年近くたっており、そろそろ建て替えをとという声は、ずいぶん以前からある。今年度からスタートしたスポーツ推進計画の中でも総合体育館については具体的に検討を行うとされている。ただ、中標津総合体育館にしても37億円の建設費が見込まれており、病院ほどの事業費ではないにはせよ、簡単なものではないが、建設に向けた検討を進めていきたい。

○モニター

体育館の中に図書館もあれば良いと言っている人もおり、年中使える複合施設が必要だと思う。

●今井教育部長

中標津町は文化会館と図書館が一つの建物の中に入っている。市としても、新たな施設を建てるとなれば、二つの目的をもった複合施設としての検討もしなくてはならないと思っている。

医師確保について

○モニター

市立根室病院については、患者が技術の高い医師を求めて他の病院に流れてしまい経営も厳しい状況だと思う。技術の高い医師がいれば、市外からの患者も増えてくると思う。

●竹本病院事務長

医師確保については、非常に厳しい状況の中、全市あげての取組みもあって、現在は何とか札幌医大と旭川医大の一部、その他に個人招聘の医師など、常勤医が14名、非常勤医師が数名、それと数十人もの出張医により対応している状況である。

医師確保の難しい点のひとつとして診療科が細分化し、専門化が進んでいることがあげられる。地域医療を担うという意味では、ある程度総合的な技術が必要とるが、そういう医師を招聘するのが非常に難しい。また、招聘にかかる金額についても、都会に比べ、特に北海道の僻地、辺地は、高いのが現実である。

患者に戻ってきてもらうために、良質な医療を提供し、市民に愛される病院、市民が安心して暮らせる心の支えとなる病院を理念に努力している。北海道の調査では根室管内から釧路の病院に約20%が流れているとされており、当院の独自調査でも延べ25,000人程度が根室から釧路に行って受診をしている。超高度な医療は他の医療圏に任せることも必要があるが、ある一定のレベルの医療については地域で完結させる使命があると考えている。

また、医師が着任してもすぐに変わるということも信頼されない理由の一つであり、長く勤めていただける環境づくりも重要と考えている。

市民が望む医療体制を全て実現するということは、大変難しいところではあるが、一步でも近づけるよう今後も取り組んでいきたい。

○モニター

高度な医療を提供し、根室で全ての病気を治して欲しいとまでは言わないが、人命にかかわることなので、受診した際に、的確な診断ができる技術をもった医師を招聘してもらいたい。

病院職員の対応について

○モニター

よく話題になるのが事務職員や看護師の対応の悪さである。受付の仕方がわからなくて困っている人がいても冷たい対応をしたり、スタッフの対応の悪さが目に付く。もちろん全員ではなく対応の良い方も大勢いるが、態度が悪いスタッフのために、ホスピタリティに欠ける感じがしている。

●竹本病院事務長

大変申し訳なく思っている。9割が良くても1割の対応が悪ければ全てダメなことと同じである。よくお叱りを受けるところであり、接遇向上委員会なども組織し、定期的に接遇の講習会なども行っている。研修などにも行かせたりもしているがまだまだ足りない。院内全てのスタッフがそうなるように職員以外も研修をする仕組みを作っている。市民の目線からすれば、不十分どころが多くあるという意見をいただいているので、皆さんに快く受診してもらえる病院となれるよう真摯に受け止め、対応してまいりたい。

○モニター

受診のシステムが変わり、受付の際に説明はしてくれるが高齢者などはすぐに理解するのは難しく、最初の頃は、名前を呼ばれず、ずっと待っている人を結構見かけた。

●竹本病院事務長

職員やボランティアが総合受付で案内するなどの対応を取ってきたが、足りない部分もあったかと思うので、今後は十分注意してまいりたい。

子どもの遊び場について

○モニター

実際に子育てをして感じるのは、子どもが遊べる場所がないことである。外で遊べれば一番良いが、天気の悪いときや、これからの時期は厳しい。1～2歳の未就学児は、子育て相談所などで週

に1回程度遊ぶ機会があるが、それだけでは全然足りないし、「くるくる」についても、運動量が増えてくると厳しい。自分としては、学校の体育館を開放してくれないかと考えている。

●高橋市民福祉部長

確かに乳幼児が遊べる場所という、現状では「くるくる」や、一日保育の体験の場など、そういうところしかないが、そういう問題意識は行政としても持っている。子育て相談所、母子センターも含めて、子育てについての取組みがなかなか見えにくいことから、複合的に一つの施設にできないかという検討には入っている。ただ、条件整備、財源も含め、どういった施設が良いのかはまだ整理をしなくてはいけないと思っている。

先ほど、子どもの遊び場としての、児童小公園の話や高齢者と子どものふれあいの場の設定といった話があったが、それらの視点は、これから少子高齢化が進む中で、大変重要であり、その柱となるのは地域コミュニティだと自分は考えている。従前は地域があって町会があって、町会の中に子ども会があった。そして町会が中心となり、盆踊りを開催し、児童小公園を管理して、地域の子どもの遊び場を作っていた。しかし現在は、根室のような地域でも市民の気持ちが都会化してきていて、「個」が中心になってきていると思う。そこで地域コミュニティをどう活性化させるかが大きな課題であり、子育て支援、高齢化対策なども含めて相対的に見直していかなくてはならないと思う。地域コミュニティは自然のなかでできたものである。一番難しいのは自然が壊れたときにもとに戻すことであり、川をきれいにする、森を作るもそうだが、自然の中でできた人と人とのつながりを行政がどう手助けして地域コミュニティ活性化させるのが最大の課題だと思う。総論の話であるが、そういうところに、これから目を向けて、子育ても高齢者対策も市民と行政と一緒に考えていかなくてはならない。そうすることで必然的に形が見えてくると考えている。

○モニター

子育て相談所で「ふれあいルーム」や「ぴよぴよルーム」を実施しているのは知っているが、十分なスペースがないのか。

●高橋市民福祉部長

子育て相談所は、松本保育所の中にあり、「くるくる」は明治町の道営住宅の中にある。確かに点在しており、わかりにくいところもある。まだ青写真までもいかないが、現状の施設利用も含め、ひとつにまとめられないかということと内部で検討しているところである。

○モニター

少子高齢化が進み高齢者が増えてきている。健康寿命ということで高齢者がいつまでも健康で生きられるよう、高齢者向けの施設を造ったほうが良いのではないかと。

●高橋市民福祉部長

我々が掲げているスローガンとしては、高齢者と子どもと一緒にふれあえる複合交流施設（拠点）という視点で検討している。宝林保育所で、はじめての試みとして実施したのだが、地域の高齢者を保育所の遊戯会に招待し、子どもの発表を見てもらうという取組みを行った。はじめての取組みで期待はしていなかったが、多くの高齢者が来て、自分の孫と同じくらいの子どものを見て元気付けられ、なかには涙している人もいた。やはりコミュニティが大切であり、その地域のコミュニティ拠点を、行政としてどのように整備していくかがこれからの大きな柱ある。高齢者と乳幼児を管轄している市民福祉部として、そういう構想の協議をしているところであり、市民から色々な意見をいただきながら検討してまいりたい。

ゲームやインターネット等が子どもに与える影響について

○モニター

学校でゲーム機器の使用時間などを規制していないのか。学校には持ってきているのか。

●今井教育部長

ゲーム機は学校には持っていくことはできない。学力向上のためには、教育委員会、学校、PTAの連携が必要。当然、学校は学校として先生の指導力を向上させ子供たちを指導する努力は最優先にしなくてはならない。家庭に対しては、長時間ゲームをしたり、夜遅くまで友達とラインで話をするなどといったことがないよう、しっかりとした生活習慣の確立を呼びかけているところである。学校だけではなかなか難しい。教育委員会、学校、家庭の3者の役割を明確にしながら、それぞれで取り組めば学力向上にも繋がるし、健全な子供たちの育成にも繋がると思う。

○モニター

今は、インターネットで調べればすぐに答えが見つかるため、大人でも使用してしまうと思う。小学生や中学生・高校生の多くがスマートフォンを使用しているというアンケート結果を広報で見た。

●高橋市民福祉部長

今では、だんだん新聞も見なくなってきた。以前は新聞やテレビをとおして、興味がなくても地域の取組みといったものが目に入ってきていた。今はスマートフォンやインターネットにより興味のある情報だけを入手し、深い知識をもつことはできるが、生きることに大切な情報でも興味がないから知らないという人が多くなってきているように思う。特に、若者に多く見られるように感じる。

先ほど「地域コミュニティ」の話があったが、最近では町会に入る若者が少なく、担い手がない。一方、高齢化が進みだんだん縮小傾向になってきている。子どもを持つ親世代が町会に入らないため、町会活動ができなくなっている。

町会活動について

○モニター

若い世代が町会に入らないという話があったが、逆に一人になった高齢者が町会を抜けるということもでてきている。そういった高齢者に対し、私の町会では広報は渡すが他の回覧はしていない。その高齢者が孤独になるのではと懸念している。

●佐田総務部長

班長ができない・回覧を回すのも大変などの理由で退会する高齢者は自分の町会にもおり、実際に増えていると思う。

○モニター

自分は、3年前に根室市に転入してきたが、町会に入っていない。広報だけは来るが、町会への加入案内などが一切無く、どう入れば良いのかわからない。前に住んでいた尾岱沼では、役場で「必ず町会に入ってください。」と案内された。根室市では言われていない。

●高橋市民福祉部長

根室市では、町会というのは、行政主導ではなく、任意団体という位置づけでやっている。言うとおおり、わからない方もいるので、今年から、転入者には、町会活動の紹介や問い合わせ先などのパンフレットを配布し、町会への入会を呼びかけている。

産業振興について

○モニター

しっかりとした産業があれば、人も根室に残るし、税金も落ちる。以前、若いお母さんから妊娠して仕事をやめたら正規社員での復帰ができないという話を聞いた。結局は、子育てにしても医療にしてもしっかりとした産業（雇用）がなくては良い方向に行かないのではないかと。若い人から見てどう思うか。

○モニター

それは、各企業の問題なので、市政についての話し合いの場で話す内容ではないと思う。

○モニター

水産関係が衰退しそうな今、市として今後の産業振興についての考えはないのか。

●佐田総務部長

企業誘致については、来る側の考えや、受け入れ能力など個々の企業の問題もある。水産加工業などは、求人を出してもほとんど人が来ないというミスマッチといった問題もある。そういったことも検討していかなくてはならない。

●高橋市民福祉部長

同じ職場への復帰については、言うとおりの各企業の状態もあるので、我々が意見できる立場にはないと思う。しかし、一度離職した方が再就職を望む場合、働きたい方の支援ということで今年度から「なでしこ応援事業」という女性の再就職に向けた職場体験や資格取得支援をする新規事業に取り組んでいるところである。

保育について

○モニター

子どもがいる人は、働き口があっても、保育所が5時までしか預けられないため、残業などがあると働けない。また、病児保育などもないため、働いていても子どもが病気になった場合休まなければいけない。そうすると、正規で働くのは難しい。

●高橋市民福祉部長

保護者の方が病気になった場合の一時保育は市としても行っているが、病気になった子どもを預かるとなると医療のそれなりの知識を有した人が必要になる。現時点ではなかなか難しいと考えている。

○モニター

一時保育も、利用したことがあるが、事前予約をしようとしても人数制限が厳しく、利用したいときに使えない。

●森谷こども子育て課長

まつもと保育所で行っている一時保育というのは、保育所内で行っているため、他の自治体でも、だいたい1日6人程度となっているが、預かる年齢にもよる。例えば3歳～5歳であればある程度余裕があるが、0歳～3歳となると、国の基準で子ども3人に1人の保育士と定められている。あくまで基準だが、大切なお子さんを預かる以上、そういった基準の中で保育をしているところである。また、運動会や発表会などの行事との兼ね合いもあり、日程が合わない日もあるのが実情である。今年7月から、一時保育の問い合わせ件数やお断りした件数などの調査を行っており、受け入れ態勢の充実を図ってまいりたいと考えているので、ご理解をいただきたい。延長保育については、一部、民間のしらかば保育園が午後6時から7時までの延長保育を行っているところである。

●高橋市民福祉部長

根室内内では、民間幼稚園が延長保育を行っているところもある。本来幼稚園は延長保育などをする施設ではないが、サービスとして延長保育を行ってくれている。今はもう公設民営といっていられる次代ではないのでできるだけ多くの要望に応えられるよう、今まで以上に民間と連携をとりながら、保護者のニーズに応えられるよう努力していきたい。専門的な話しにはなるが、国の制度が「幼保一元化」という幼稚園と保育所を一元化するように変わった。今までは、保育所と幼稚園は預かる場と教育の場に分かれていた。しかし、待機児童対策などで制度が変わり、根室でも少しずつ幼稚園側が

目を向けてきている。少しずつコミュニケーションを図り連携する中で、今年度から、保育所も幼稚園も3子目以降無償化というものを実施している。一度にはできないが、根室のような基幹産業が水産業というところは共稼ぎが多いので、さまざまなことを考慮し、少しずつ改善していきたい。

交通環境について

○モニター

先日、ベビーカーを押して歩道を歩いているときに、危なく車とぶつかりそうになった。歩道をもっと安心して歩ける環境にして欲しい。また、歩道や横断歩道は舗装が悪くベビーカーを押すのに大変苦勞している。

●高橋市民福祉部長

車の駐車などについては、取り締まり機関である警察にも情報提供をしている。先日、バックした車にひかれ、大切な命が失われるという事故もあり、警察も啓発活動などを行っているが、今回の会議でもこのような意見があったことについては、伝えてまいりたい。

道路整備については、費用がかかる話であるが、今後市全体の施設も含め、道路もノーマライゼーションの考えのもと障がい者の視点で段差のない構造のものなどを検討していかなくてはいけないと思っており、ご意見として承りたい。

6. 閉会挨拶（佐田総務部長）

本日は貴重な意見、提言をいただき感謝申し上げます。本年度の市政モニター会議は本日の第三回目の会議をもって最後となるが、本会議以外にも市政に対するご意見があれば、広報広聴担当まで連絡をいただきたい。三回にわたり会議に出席をいただき改めて感謝申し上げます。